

第5章 福音と信仰

この章のテーマ

1. 福音とは何か？を知ります。
2. 福音に応答する者となります。
3. 心に神さまをお迎えして、あなたと神様との信頼関係を回復します。

しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。（ローマ3章21、24節）

■福音とは何か？

- ・福音とは、イエスさまによって完成させられる、イスラエルから始まって全世界、歴史の始まりから歴史の終わりそして完全な世界にまで至る、神さまの愛と人類の救いの物語です。
- ・神さまは、この世界の歴史の中で、何をなさったのか、何をなさっておられるのか、これからどうなるのか？…福音の歴史を概観してみましよう。

1) 天地創造 人の創造 人の罪

神さまは、天と地、人の目に見えるもの見えないもの、全てのものを創造されました。

神さまは、神さまのかたちに似せて、つまり霊と愛に生きる者として人アダムとエバを創造されました。

人には使命が与えられました。それは、神さまとの親しい生きた関係により、神さまと共に世界を治めることでした。

けれども誘惑にそそのかされたアダムとエバは、神さまを必要とせず自らが神のようにふるまいたいと願い、神さまとの関係を切ってしまいました（これを原罪といいます）。

神さまとの関係を失った人は、その使命をも失いました。そしてエデンの園から出てゆくことになりました。



その後も残念なことに、人類は同じように罪を犯してゆきました。

神さまは、歴史の中で、幾度も軌道修正（悔い改め）のチャンスをおあたえになりました。

けれども、人はいくども神さまを裏切り、罪を繰り返してきたのでした。

2) アブラハムとイスラエル民族

そこで神さまは、この地に神さまの愛と贖いの支配を
確立するため、アブラハムという一人の人を選びました。
神さまの言葉に従ったアブラハムに、
神さまは祝福の契約を与えられました。



その内容は…

- ・アブラハムに子どもが生まれてやがて一つの民族となること（これがイスラエル民族です）。
- ・イスラエル民族に土地が与えられること。
- ・イスラエル民族の中から救い主（キリスト）が誕生し、彼によって全世界が祝福されるということ、です。（創世記13：1－3）

神さまは、弱く小さな国イスラエルを通して、神さまの愛と祝福を現そうとされたのです。神さまは、預言者たちを通してイスラエルにたくさんのみ言葉を与えられました。

それでも、イスラエルは神さまのご愛や信頼に応えることができないことが多かったのです。時に、彼らは神さまを忘れ、自分たちのために神々（偶像といいます）を作り、礼拝をささげました。

けれども、神さまは、ご自身の立てた契約に忠実でした。

イスラエルがエジプトで奴隷であった時、神さまは彼らの叫びを聞かれて、モーセを代表者に立て、彼らを助け出されました。

神さまは、彼らに十戒と律法（ルール）を与えられ、彼らが人間らしい生活ができるようにしてくださいました。

しかしイスラエルは、その十戒にも律法にも従うことを忘れてしまいました。

3) イスラエルの王政時代

ある時、イスラエルは、他の国々のように王を立てることを求めました。最初の王はサウル王、次にダビデ王、その後にソロモン王と続きました。



ソロモン王の時代はイスラエルの最盛期でした。

しかしその直後、偶像礼拝に陥り、イスラエルは北王国（イスラエル王国）と南王国（ユダ王国）に分裂してしまいました。

北王国・南王国それぞれに 数多くの王たちが治めました。

この間も、神さまは預言者たちを送って彼らを導こうとされました。

でも結局、神さまの言葉を大切にはせず、北王国はアッシリアによって、南王国はバビロンによって滅ぼされてしまいました。

国民の多くは、捕囚されました。彼らは、長い期間を過ごす間に再び、聖書を読むようになり、やがてイスラエル（土地）に帰還いたしました。

霊的な復興もありましたが、やがてそれも下火になりました。

4) イエス＝キリスト 旧約の預言と律法を成就する神の子、全世界の主
それから数百年にわたる沈黙の後、神さまは最高の計画
を実行に移されました。

神さまは、子なる神イエスさまを、
マリヤとヨセフを通してイスラエルに送られたのです。
イエスさまは人となって、
わたしたち人間の世界に来てくださいました。
これは神さまからの人類との関わりの証です。



イエスさまはご生涯を通して、
この地上で、神さまの愛を行い、神さまの祝福の言葉を語り、
悲しむ者や病の者や貧しい者に触れて救ってくださいました。
イエスさまは人々を助け出し、赦し、救い、癒されたのです。
イエスさまは、神様の愛、そのものでした。



それなのに、人々はイエスさまを受け入れず、
エルサレムの郊外にあるゴルゴダという丘で
イエスさまを十字架で殺したのです。

イエスさまは十字架の上で、
「父よ、彼らを赦してください。
彼らは何をしているのかわからないのです。」と
祈られました。



十字架に、神さまの愛と私たちの救いが表されています。
神さまは、人間の罪や苦しみや悲しみのある世界に、
イエスさまによって共におられ、救いと希望をもたらされて
います。

イエス様の十字架とその結果である復活は、永遠の命（神さま
との交わりにより、死の向こうにまで続く価値と躍動に満ちた
命）があることを明らかにされました。

イエスさまのご生涯、十字架は、あなたや私のためでも
あったのです。

そして私たちはこの救い主を本当は必要としているのではないのでしょうか？
イエス様は復活の後40日間、弟子たちや人々に現われその後、天に昇って
いかれしました。



5) イエス=キリストの弟子たち

弟子たちは、イエスさまという王のご支配を受け入れるよう、人々に呼びかけました。
なぜならイエスさまのご支配は、赦しに満ち、親切で、平和で、祝福に溢れ、人を変えることのできるものだからです。



人々がイエスさまと共に歩むならば、人々の人生と社会はずいぶん変わるのではないのでしょうか？
神さまは、そのご愛と救いの世界を作るために必要なもう一人の助け主=聖霊なる神さまを送られています。聖霊なる神さまは弟子に力を与えられます。



そして三つの愛（神さまのご愛を受けて、神さまを愛し・自分たちを愛し・隣人たちを愛する）の実現のために必要な力をくださいます。
三つの愛を育て、三つの愛に生きる、これが神の国の目指している世界です。



6) 教会

イエスさまはイエスさまの弟子たちの集まり=教会を作られました。教会は、父なる神の家族、イエスキリストのお体、聖霊の神殿です。三位一体の神様のご愛と救いが表されるところであり、イエス様の手足として協働して務めをなしてゆくところであり、人々が神様のみ前で人間性を取り戻すところです。
神さまは、教会を通して、この世界で、神の国を現そうとされています。



7) 終結と新しい世界

神さまが福音の歴史を導かれているように、やがて、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められるという神様のご計画に希望をもっています。（エペソ1：10）



私たちの信仰の歩みは、
平安と愛と喜びで満たされる素晴らしい世界を目指しているのです。

■福音に応答しましょう

福音とは、イエスさまによって完成させられる、イスラエルから始まって全世界、歴史の始まりか歴史の終わりそして完全な世界にまで至る、神さまの愛と救いの物語です。

私たちは、福音に答えて生きてゆきたいと思います。

以下のように歩んで行きたいと思います。

1) 福音を知る

「福音」として「聖書」を読みましょう。そして聖書の民となりましょう。

2) イエスさまについて知りましょう

まず4つの福音書を読みましょう。そしてイエスさまについて考え、思いめぐらし、話し合ってみましょう。その時には、旧約聖書との関連についても気に留めましょう。

3) 教会の歴史についても知りましょう

使徒、書簡、黙示録を読みましょう。そして、それ以後の教会の歴史についても知りましょう。

4) バプテスマ・主の晩餐式を受けましょう。

バプテスマ・主の晩餐式を受けましょう。

バプテスマは、個人的な信仰の表明ではありますが、人々の前でバプテスマを受けるということは、イエスさまの物語を公に宣言することにもなります。共に福音の道を歩むイエス様の弟子となることを言い表すことでもあるのです。

また、主の晩餐式もまた、イエスさまとの交わりに生きてゆくことを表明していることです。それは、イエス様の愛と命のご生涯の後に従うこととなります。

5) 聖霊を受けたものとして神の民として生きてゆきましょう。

クリスチャンとは、自分の人生を以下のように献げてイエスさまに従う弟子のことです。

- ・ 神さまを礼拝する
- ・ 教会というイエスさまのお体の大切に个性的な一部分として自らの賜物・時間・財を献げる
- ・ イエスさまによる神の国の歴史に意識的に参加する
- ・ 三つの愛に生きる
- ・ 弱い人、小さい人たちを大切にする
- ・ 家族や隣人や地域の中でキリストの思いで生きようとする

【Q&A】

Q:イエス様を心の中心に迎えると、不自由になるのではありませんか？

A:ご質問に感謝をいたします。

私たちの心の中心には、主が座るためのイスがあります。

それは本来、「主」と私たちが呼んでいるお方がおすわりになられるはずの王座です。

そこは人生の進路をコントロールするイスです。

そこにイエス様が座っているか？ そこに自分が座っているか？

それによってその人の生き方には大きな違いがうまれます。

そこにイエス様が座っていると、その人は神の国を体験するようになります。自分が神の子である、愛されているということを実感します。状況が悪くても喜ぶことができるし、祈ることができるし、神様と人を愛することができます。

普段は、そのことをあまり気にされることはないかもしれませんが、人生の途上で、イエス様の思いを優先させるか、自分の思いを優先させるか、決めなければならない時があるものです。

その時に、私たちは主イエス様の思いを選び取りたいとねがいます。

人は、イエス様を主と信じて心の中に歓迎した後でもなかなかそのイスを明け渡そうとしません。イエス様に心の王座を明け渡すことを恐れるのです。けれどもそれは結局、自分中心に生きるという原罪を続けていくことになり、自分はいつまでも変わることはできません。そして人が、原罪の傾向を持ち続けているかぎり、不自由と不幸と不安を持つことになります。

イエス様を王座に迎えた信仰を「山登り」に譬えてみましょう。

イエス様があなたの心の王座に座られたら、イエス様はどのようにあなたの人生を導かれるのでしょうか？

山登りをする時に譬えてみましょう。

イエス様があなたの心の王座に座られた時、

それはイエス様があなたの人生を

導かれる主であることを意味します。

人生は、山あり谷ありです。崖も川も迷路だってあります。

しかもあなたにとって人生の山登りをする時、いつも全く新しい道を歩むことになります。

イエス様は慣れた登山家、すばらしいガイドです。

イエス様はあなたに言われます。「さあ、いっしょに昇ってゆきましょう。」と。

あなたはイエス様とともに、おしゃべりしながら、美しい景色を見て歩みます。

時には、危険な道もあるでしょう。そんな時にはイエス様が手を握ってくださいます。

時には、分かれ道もあるでしょう。でも独りぼっちではありません。イエス様がいっしょです。

あなたの人生の登山は、ひとりで寂しく、危険な道に行くではありません。

イエス様がいっしょです。

あなたの思いや意見は無視されますか？いいえ、尊重されます。

そしていっしょにすばらしい体験をしてゆくのです。

あなたは知らない山に登る時、ベテランの登山家がいっしょで不自由だと思われませんか？そんなことはないでしょう。



力があるくじらも、
水の中にいてこそ、
自由に泳げます



ベテランの登山家と
いっしょに、話しながら
...

◇ニーバーの祈り

イエス様といっしょに歩むということを考えるにあたって、ニーバーという人の祈りをご紹介します。と思います。

神よ、変えることのできないものについては、

それを受け入れる冷静さを与えたまえ。

変えることのできるものについては、

それを変えるだけの勇気を与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとのを、

識別する知恵を与えたまえ。

過去は変えることはできません。でも今を変えることができます。

他人を変えることはできません。でも自分が変わろうとすることはできます。

ある状況は変えることができません。でもそれに対する感情を変えることはできます。

同じ状況でも、ある人は絶望し、ある人は希望を持つことができます。

できないことや変えることのできないものについては、あなたの心が疲れきってしまわないように、意識的に神様に委ねましょう。

イエス様に委ねながら、自分にできることに集中してベストを尽くすのがクリスチャンの生き方です。

イエス様に人生の王座を明けわたすというのは、神様と人間との境界線（本質的な違い）をしっかりと認識して力強く生きる秘訣です。

恐れる必要はありません。

むしろその逆です。

どうぞ平安の中で支えられながら、神様の力を頂いて、ベストを尽くしていきましょう。



■神さまにお祈りしましょう

あなたは既に、父・子・聖霊なる神さまについて知りました。
人間についても知りました。
そして今、福音について知りました。
信仰は、呼びかけに対して信頼して一歩、歩み始めることです。
神さまに対して、以下の祈りをされませんか？
神さまは喜んで、聞いてくださいます。

お祈り

父なる神さま。
私は福音を知りました。
あなたはイエスさまによって救いを成し遂げ、今も働いていてくださいます。

主イエス様、私はあなたを必要としています。
私は今まで神さまのことを知らずに自分の価値観で生きてきました。
神さまから離れている状態が罪であったと認めます。
あなたが、私たちの罪を赦して和解を与えてくださるために十字架で死んでくださったことを感謝致します。
全ての罪を赦し、永遠の命を与えてくださりありがとうございました。
私は今から、あなたを私たちの救い主、人生の主として信頼してゆきます。

聖霊なる神さま。
あなたは福音の歴史に生きようとする私の内にきてくださいます。
ありがとうございます。
私は教会のメンバーになりたいです。そして私たちは三つの愛に生きてゆきます。
弱い人、小さい人たちを大切にし、神の国のために、教会の兄弟姉妹方と共に生きてゆきます。
どうぞ私の心の中心で、私の人生を導いて下さい。
アーメン。



このお祈りは、神さまの愛を認めて、受け入れ、
応答したことを示す、とても大切なお祈りです。
記念日として記録しておきましょう。

年 月 日

マイルーツクラス 解答用紙

マイルーツクラスの解答用紙です。

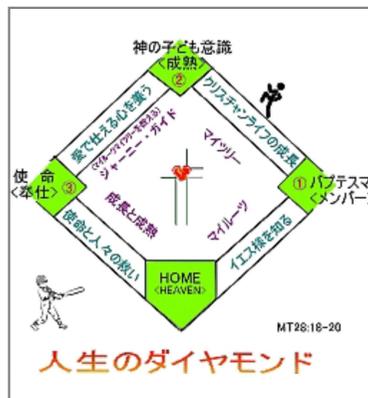
各章2枚ずつになっています。

できれば、マイルーツを学んだその日の内に解答用紙に書き込みください。

次回のマイルーツの最初に、答え合わせをいたします。

点数が問題なのではなく、分からない処をはっきりさせるためです。

その時に遠慮なく、質問もしてください。



名前

1. 次のうち、正しいと思うものに○印を、まちがいと思われるものに×印をつけてください。 (各4点、40点)

- 全てのものは偶然のうちに進化してうまれました。
- アダムとエバは、神様との関係を切ってしまったため、エデンの園から出てゆくことになりました。
- 神様は、歴史の中で何度も悔い改めのチャンスを与えてくださいました。
- アブラハムの子孫からアメリカ人が生まれました。
- イスラエルは、度々、神さまを裏切り、自分のために偶像（人が作った偽者の神で、ごりやくの目的のために作られた）を作りました。
- イスラエルの全盛期ソロモン王の時代の後、すぐにイスラエルは北王国と南王国に分裂しました。
- イエスキリストは、人となってこの世界に來られました。
- イエスさまが十字架についたその丘の名前はソドムといいます。
- イスラエルに与えられていた祝福は、全世界の人々に広がってゆきました。
- 教会は神の国の現されるところです。

2. 次の文の、□の中に適当と思う字を入れてください。(□に一字ずつ) (各4点、48点)

a) 福音とは、□□□さまによって□□させられる、□□□□□から始まって□□□、歴史の始まりから歴史の終わりそして完全な世界にまで至る、神さまの愛と人類の救いの□□です。

(物語といっても現実の歴史です)

b) アダムとエバ(人)は、神さまを必要とせず自らが神のようにふるまいたいと願ひ神様との関係をきってしまいました。これを□□といいます。

c) 神様は、この地に神様の愛と救いの支配を確立するため、□□□□□□という一人の人を選ばれました。彼は、イスラエル民族の族長となりました。

- d) イエスさまは□□の愛、そのものでした。
- e) イエスさまはイエスさまの□□たちの集まり=□□を造られました。
- f) 教会は、三位一体の□□のご愛と救いが表される場所であり、
□□□□の手足として協働して務めをなしてゆく場所であり、
人々が神様のみ前で□□□を取り戻す場所です。
- g) 私たちは「□□」として聖書を読みましょう。
- h) 私たちはイエスさまを知るために、4つの□□□を読みましょう。
- i) 人々の前でバプテスマを受けることは、□□□さまの物語を公に宣言することでもあります。
- j) 主の□□□もまた、イエス様との交わりに生きてゆくことを表明していることです。
- k) クリスマンとは、自分の人生を献げてイエスさまに従う□□のことです。
- l) □□は、神様の呼びかけに信頼して一歩、歩み始めることです。

3. 次の問いに答えてください。 (12点)

あなたが福音を知り、イエスさまを信じて生きることは、あなたの人生に
どんな価値や意味を生むと思われますか？

ご自分の考えで三つ以上書いてください。

1.

2.

3.





ホームページにいきます

<http://midori.church.jp/>

日本バプテスト連盟

緑の牧場キリスト教会（みどりのまきばきりすときょうかい）

広島県東広島市西条町田口2799

牧師 酒井敬仁

マイルーツをされた方、
よかったらご連絡ください。

